



株式会社キミカ 第4回 ジャパン SDGs アワード 特別賞受賞報告



株式会社キミカは、2020年12月21日、総理大臣官邸において
第4回ジャパンSDGsアワード特別賞(SDGsパートナーシップ賞)を受賞致しました。
本賞は、SDGs推進本部(本部長:総理大臣、副本部長:官房長官・外務大臣)が主催し、
SDGsの達成に向けて優れた取り組みを行う企業、団体を表彰する制度です。

ここに受賞をご報告するとともに、皆様のお力添えに心よりの御礼を申し上げます。



写真左から、加藤勝信 官房長官、当社社長 笠原文善、菅義偉 内閣総理大臣、茂木敏充 外務大臣

みなさまのご支援に心より感謝いたします



創業者 笠原文雄



創業者 笠原文雄は、海岸に漂着し、なにも利用されることなく朽ち果ててゆく海藻に着目し、資源として有効活用することを目指しました。そして天然の食物繊維「アルギン酸」を抽出、仲間とともに電力・熱源の使用を最低限に抑えた製造方法を開発しました。更に、抽出したあとの海藻残渣には鋳型粘結剤や飼料、肥料としての活路を見出し、アルギン酸の工業化を成功に導きました。

以来80年間、わたしたちはアルギン酸の世界的パイオニアとして産業界をリードし、Best in the Worldを旗印にその用途開発に取り組んで参りました。今やアルギン酸は食品・医薬・化粧品の他幅広い分野で利用され、人々の健康で豊かな生活に不可欠な素材になりました。

南米チリの海藻産地においては、現地に加工備蓄基地を設けて乱獲を防ぎ、安定調達と海藻資源保護、漁民の生活安定に大きな役割を果たしています。チリプラントでは海藻残渣を肥料にしたブドウ栽培に取り組み、千葉プラントの屋上には太陽光発電パネルが敷きつめられています。

この度、こうした創業以来続けてきたサステナビリティー課題に対する弊社の取組みが「国際的なロールモデルとなる」という評価を受け、受賞の栄に浴することができました。

ジャパン SDGs アワードは SDGs における日本の最高賞です。過去の受賞団体をみると、非営利団体や大企業、もしくは環境保護や慈善事業が本業に近い企業ばかりです。

日本企業の9割は中小企業です。SDGs の達成には、われわれ中小企業による取り組みが極めて重要となります。株式会社キミカは、栄えある受賞企業の名に恥じないよう一層 SDGs を推進すると共に、取り組みの輪を広げる努力を続けてまいります。

代表取締役社長

笠原文善

「英知を結集して行動した結果であり、大変感銘を受けました」

第四回ジャパン SDGs アワードの受賞、誠におめでとうございます。
SDGs 推進円卓会議の構成員の皆様の御尽力に心から敬意を表する次第でございます。

本日受賞された皆様を始め、今回応募のあった取組は、いずれも多様な方々が英知を結集して行動した結果であり、大変感銘を受けました。本年は、持続可能な開発目標の達成に向けた、行動の10年の最初の年です。私が目指す、経済と環境の好循環に支えられた、ポストコロナの新しい社会をつくり上げていく上でも、更なる取組が大変重要なと考えています。

皆様の取組を契機に、より多くの人が団結して行動し、目標達成に向けた取組が一層、加速されることを期待して、私のお祝いの挨拶とさせていただきます。



写真：首相官邸 HP より

内閣総理大臣
菅 義偉

キミ力の取り組み

当社は80年間にわたり、海藻を原料とした生産活動を続けてきました。この間、エル・ニーニョ現象による海藻不漁や、一部の心無い業者による投機的な海藻の買い占めなどで、幾度となく原料海藻が不足する危機に直面し、乱高下する海藻価格に翻弄されて海を離れるチリ漁民の姿を目の当たりにしてきました。こうした経験を背景に、海洋資源を保全して、チリ漁民の生活基盤を安定させることが当社の事業継続の最重要課題と認識するようになりました。わたしたちは、日本唯一のアルギン酸メーカーとしての供給責任を果たし続けるため、次のような取り組みを行っています。



生活水準向上のために

海藻は需給バランスの変化で価格が大きく上下するため、チリ漁民は収入が安定せず、不安定な暮らしを余儀なくされてきました。当社は、チリの海藻調達会社2社に資本参加し、市況に惑わされることなく継続的かつ安定的に漁民から海藻を買い取っています。この購買方針は、投機的な海藻乱獲を抑制しただけでなく、漁民の収入を安定させて生活水準を飛躍的に向上させました。

チリプラントの位置するパイネ市では降雨量の減少による水不足が社会問題化してきています。飲料水や生活用水を井戸水に頼る地元住民にとって、この影響は深刻です。そこで当社はタンクを設置し、近隣の住民の皆様向けに無償で飲料水を提供する試みを開始しました。

そのほかにも、日本大使館と共同で地元自治体に救急車と救助工作車を寄贈するなどして地域社会の安心・安全に貢献しています。また、資本参加する現地の海藻調達会社を通じて、海藻収集に児童が動員されていないことを確認しています。



環境負荷軽減のために

海藻抽出液からアルギン酸を分離する工程には、電力も濾剤も使用せず、比重差を利用した浮上沈降分離法を用いています。このエコな製法は当社の創業者が考案したもので、創業以来、当社の競争力の源となっています。

漂着海藻は腐りやすいので拾い集めたらすぐに乾燥させる必要がありますが、当社は、アタカマ砂漠に面するチリ北部の乾燥帯を利用して、電力も熱源も消費することなく海藻を乾燥・保管しています。こうした工夫は、漂着海藻を原料として使用しながら世界の競合メーカーと張り合うための競争力の源泉となるだけでなく、製造方法そのものが環境負荷の軽減に役立っています。

工場の屋根には888枚(1,424平米)の太陽光パネルを敷き詰め、環境負荷を軽減するための積極的な投資(エネルギー効率の高い新型エアコンプレッサーの導入や照明のLED化などを)を行っています。



資源の有効活用のために

世界中の海に繁茂する海藻は、光合成により二酸化炭素を吸収し、海水を浄化します。海中林を形成する海藻は、魚たちの産卵場所となり、稚魚たちを守る搖りかごにもなります。しかし成熟した海藻は、やがて岩礁から剥離し、海のゴミとして漂流、腐敗して二酸化炭素に戻ります。

当社は、なにも利用されることなく朽ち果て再び二酸化炭素に戻りゆく運命にある漂着海藻を有効活用することにこだわり、アルギン酸を製造しています。海辺に打ち上げられた海藻を人手を掛けて拾い集める作業は、大型船で沖にてて海藻を刈り取る方法と比べて手間が掛かります。世界の競合メーカーが大型船での海藻刈り取りを行うなか、人海戦術で収集した海藻にこだわり続けることは容易なことではありませんが、さまざまな工夫によって競争力を強化し、一貫してこうした生産活動を維持してきました。

当社ではアルギン酸を抽出したあとの海藻残渣を捨てることなく、飼料、肥料、土壤改良材としてさらに付加価値を付けて有効活用しています。この肥料は近隣農家の収穫量向上に貢献しているだけでなく、チリプラントの広大な敷地を利用したワイン用のブドウ栽培にも生かされています。



海洋資源を守るために

当社は、1980年代から海藻資源の豊富なチリに進出し、現地の漁民と共同で海藻の乱獲を防ぐ活動に取り組んでまいりました。たとえば、チリ海藻産業協会の一員として、海洋資源に関するさまざまな調査活動に協力しています。調査結果はチリの水産管轄官庁に報告し、海藻資源保全のための法制度の整備に役立てられています。また、現地の系列会社を通じて、チリ沿岸への海藻養殖も支援してきました。

その他にもSDGsに繋がる活動に取り組んでいます。



詳細は当社WEBサイトでご紹介しております。

SDGsとは？

～世界のすべてのひとが幸せになるために。2030年までにみんなで取り組む17の目標～

SDGsは、Sustainable Development Goalsの略で、日本語では「持続可能な開発目標」と訳されます。「誰一人取り残さない」をテーマに、持続可能でよりよい社会の実現を目指すための世界共通の目標です。2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットで構成され、2015年の国連サミットにおいて193カ国が全会一致で採決されました。

17の目標には、貧困や飢餓だけでなく、働きがいや経済成長、気候変動に至るまで、21世紀の世界が抱える課題が包括的に含まれています。そのため、発展途上国のみならず、先進国も含めたすべての国が一致団結して取り組む必要があります。政府や自治体だけではなく、すべての企業、そして、一人ひとりの個人に具体的な行動が求められている点が特徴です。

社会、経済、環境の3つの側面から捉えることのできる17の目標（SDGs）を統合的に解決することによって、人類は持続可能なよりよい未来を築くことができるのです。

2019年9月に開催されたSDGサミットで、国連事務総長は「取組は進展したが、達成状況には偏りや遅れがあり、あるべき姿からはほど遠く、今、取組を拡大・加速しなければならない」と述べ、SDGsの進捗に危機感を表明しました。子供たちによりよい未来を残すため、わたしたちすべての企業と一人ひとりの個人が具体的な行動を起こすことが求められています。

- ジャパン SDGs アワード -

SDGs達成に資する優れた取組を行う企業・団体を表彰する制度として2017年に創設されました。NGO・NPO、有識者、民間セクター、国際機関等の広範な関係者によって構成されるSDGs推進円卓会議の意見を踏まえて、SDGs推進本部が受賞団体を決定します。SDGs推進本部は、内閣総理大臣が本部長、内閣官房長官と外務大臣が副本部長となり、全閣僚が構成員として参加する組織です。今回で4回目を数える本賞は、企業のみならず、NGO・NPO、教育機関、地方自治体を表彰しており、国内の取組を「見える化」することを通じて、より多くの行動を促進する役割を果たしています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

日米開戦前夜の1941年、当社は海藻化学という新たな時代の扉を開きました。それから80年間、アルギン酸の生みの親としての自負と責任感を持ち、愛情こめてわが子アルギン酸を育ててまいりました。この一貫した創業からの志はこの先50年後も、100年後もいささかも揺らぐことはありません。先輩たちが時間を掛けて築き上げた「ひとつ地球にやさしい生産スタイル」を継承し、アルギン酸をさらに育ててまいります。

当社は、2014年に世界初の注射剤用原薬アルギン酸工場を設立し、アルギン酸の医療応用に向けた研究を開始しました。こうした取り組みは実を結びつつあり、上市を控えた製品が複数あります。環境価値・社会価値・経済価値を両立した素材で、人の命を救い、健康を守り、痛みを和らげる。それが私たちの次なる目標です。SDGs達成に向け、取り組みの輪を広げてゆきます。



わたしたちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

株式会社キミカ | <https://www.kimica.jp/>

本 社：東京都中央区八重洲2-4-1 〒104-0028 TEL: 03-3548-1941 FAX: 03-3548-1942 E-mail: tokyo-office@kimica.jp
大阪営業所：大阪市淀川区西中島3-23-16 〒532-0011 TEL: 06-6300-1310 FAX: 06-6300-1306 E-mail: osaka-office@kimica.jp
千葉プラント：千葉県富津市大堀1029 〒293-0001 TEL: 0439-87-1131 FAX: 0439-87-3613 E-mail: chiba-plant@kimica.jp

Alginatos Chile S.A. [Alchi] KIMICA America Inc. KIMICA Europe GmbH